





医師
若手医師・医学生
看護師
薬剤師
オンデマンド
Web講演会
調査
企業求人

医師TOP
NEWS & REPORT
連載・コラム
特設サイト
(医療経営/癌他)
学会カレンダー
処方薬事典
サービス

お知らせ > 「コロナ後」に挑む 日経BP本社特設サイトはこちら > 医療従事者向けCOVID-19関連情報は「日経メディカル Online」

医師TOP > NMO処方サーベイ > スポレキサントが着実にシェアを伸長

NMO処方サーベイ

睡眠薬（経口）◇第4回調査

## スポレキサントが着実にシェアを伸長

1位はゾルピデム、2位はスポレキサント、3位はエスゾピクロン

2020/11/07




シェア 0
0
ツイート

日経メディカル Onlineの医師会員を対象に、睡眠薬（経口）のうち最も処方頻度の高いものを聞いたところ、34.2%の医師がゾルピデム酒石酸塩（商品名：マイスリー他）と回答した。

第2位のスポレキサント（ベルソムラ）は20.3%、第3位のエスゾピクロン（ルネスタ）は14.3%の医師が、最も処方頻度の高い薬剤として選んだ。

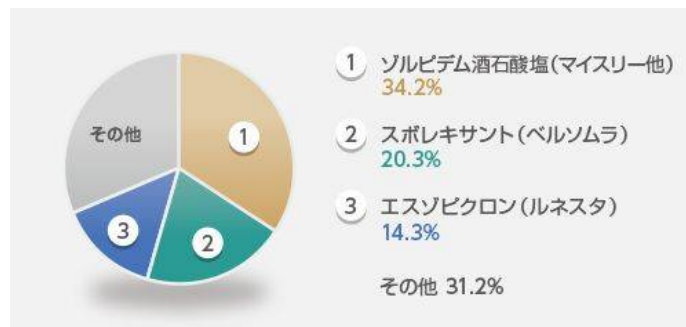


図1 日経メディカル Onlineの医師会員が最もよく処方する睡眠薬（経口）（処方経験のない461人を除いて作成）

図には示していないが、4位以下は次の通り。

- ・ラメルテオン（ロゼレム） 8.4%
- ・プロチゾラム（レンドルミン他） 7.4%
- ・エチゾラム（デパス他） 5.1%
- ・ゾピクロン（アモバン他） 2.5%
- ・エスタゾラム（ユーロジン他） 1.7%
- ・トリアゾラム（ハルシオン他） 1.4%
- ・レンボレキサント（デエピゴ） 1.4%
- ・リルマザホン塩酸塩水和物（リスミー他） 0.8%
- ・フルニトラゼパム（サイレース他） 0.6%
- ・クアゼパム（ドラルール他） 0.5%
- ・ニトラゼパム（ネルボン、ベンザリン他） 0.5%

- ・メラトニン（メラトベル） 0.5%
- ・ロルメタゼパム（エバミール、ロラメット） 0.2%
- ・フルラゼパム塩酸塩（ダルメート） 0.1%
- ・ハロキサゾラム（ソメリン） 0.1%

今回トップのゾルピデム酒石酸塩は、第1回調査（2016年3月）、第2回調査（2017年7月）、第3回調査（2019年3月）を通じて最も処方頻度の高い睡眠薬として選ばれているが、第2回調査以降はシェアが下がってきている（48.7%→51.3%→43.1%→34.2%）。

代わりに第2位のスポレキサントが回を追って着実にシェアを伸ばしている（3.4%→7.4%→12.8%→20.3%）。

自由記述形式で聞いた「処方する理由」によれば、スポレキサントは、依存性が少なく導入薬として使いやすいことが評価されてシェアを伸ばしているようだ（下別掲記事参照）。

【調査概要】日経メディカル Online の医師会員を対象にウェブアンケートを実施。期間は2020年10月24日～31日。有効回答数は5710人。内訳は病院勤務医4178人、診療所勤務医705人、開業医702人、その他125人。

### 第1位のゾルピデム酒石酸塩を処方する理由

（マイスリー他）

・入院中の高齢者や睡眠薬ナイブの患者さんにはベルソムラを第一選択としていますが、入眠効果の切れ味という点からマイスリーを処方することが一番多いです。また過去からの処方継続もマイスリーが一番多くなっています。（50歳代病院勤務医、消化器外科）

・効果が速やかで、短時間作用であることから、現時点では使用頻度が最も高くなっています。ただ、新規処方としては、転倒などのリスクが少ないスポレキサント、ラメルテオンの処方が増えてきています。（60歳代病院勤務医、呼吸器内科）

・高齢者に睡眠薬を処方することが多いですが、マイスリーは使い慣れているということと、非ベンゾジアゼピン系であることからよく処方しています。患者の評判もいいです。（60歳代病院勤務医、一般内科）

・入眠促進効果が高く、中途覚醒や早朝覚醒の抑制効果もあるため、最初に処方する製剤としては第一選択としています。（60歳代病院勤務医、一般内科）

・低用量から開始でき、入眠効果に優れるためよく使う薬になっている。高齢者にも使いやすい印象がある。（30歳代病院勤務医、腎臓内科）

### 第2位のスポレキサントを処方する理由

（ベルソムラ）

・依存性や筋弛緩作用がなく、まずまずの効果があるので最初に処方する薬剤として使用しやすい。ただし、ベンゾジアゼピン系薬剤に比べると効果不十分例が多いことや、薬効が残りやすいことなどは短所である。（30歳代病院勤務医、精神科）

・依存性がないとの報告。たまに悪夢をみる人がいるが多くはない。中途覚醒しても二度寝できる。高齢者でも比較的使える。（60歳代病院勤務医、消化器内科）

・ベンゾジアゼピン系薬剤と違い、身体依存性がないことと、入眠や中途覚醒の問題にも使える点で、初回の睡眠薬の選択肢としては使う機会が多い。（30歳代病院勤務医、精神科）

・依存が出にくい点、入眠障害に効果がある点です。比較的新しいですが、非ベンゾジアゼピン系薬剤ということで効果を見ながら使っています。（60歳代診療所勤務医、一般内科）

・最近はその薬のファーストチョイスが多い。効果は不十分との訴えも多いので、その際は他剤へ変更する。（60歳代病院勤務医、一般内科）

### 第3位のエスゾピクロンを処方する理由

(ルネスタ)

・自然な睡眠を期待するとこれになります。少し効果の発現は遅めであるので、説明が必要です。（60歳代病院勤務医、脳神経内科）

・長期処方が可能。入眠効果は良い。用量調整が可能。半減期が5時間くらいでちょうどよい。苦みが残る人がいる。（60歳代病院勤務医、血液内科）

・当院は高齢者が多いので、転倒が少ないとのふれ込みのルネスタが第一選択です。効果は他剤と大差ない印象です。（50歳代病院勤務医、一般内科）

・入眠改善だけではなく、中途覚醒の防止にも効果がある印象。比較的中止もしやすい。（40歳代診療所勤務医、精神科）

・軽度～中等症の不眠に使いやすい。力価が低く設定されており高齢者でも使いやすい。（60歳代病院勤務医、精神科）

1

シェア 0

0

ツイート

## 連載の紹介

### NMO処方サーベイ

NMO処方サーベイでは、日経メディカル Onlineの医師会員を対象に毎週実施している調査の結果を基に、全国の医師がどのような薬剤を最もよく処方しているのか、また、その理由をご紹介します。医師会員の先生方は、ぜひ調査にご参加の上、NMO処方サーベイの結果を日々の診療にお役立てください。

→医療・医薬関係者向け『日経メディカル処方薬事典』はこちら

⊕ 連載をフォロー

## この連載のバックナンバー